

中学校第1学年 国語科 学習指導案

期 日 平成 29 年 2 月 17 日 (金) 第 2 校時
 場 所 山鹿市立山鹿中学校 1 年 5 組教室
 指導者 教諭 宮崎 奏映

1 単元名

「自分でニュースを編集し、情報を見極めるプロになろう！」～情報の見極め方を考える～
 (「ニュースの見方を考えよう」)(東京書籍「新編 新しい国語 1」)

2 単元について

(1) 単元観

情報化が進化した現代社会では、生徒の身近にも様々な情報が氾濫している。そのため、テレビや新聞、インターネットなどのメディアの中から、見つけ出した情報を多面的・多角的に吟味し見定めていく能力や、情報と自分の知識等を結びつけて考えをまとめていく能力の育成が求められる。

本単元は、学習指導要領第1学年読むこと「オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること」を受け、見つけ出した情報に共感したり、疑問を持ったり、批判したりする活動を通して、情報に対する見方や考え方を新たに発見したり、様々な視点から情報について考えたりすることを学習する。教材文では、筆者である池上彰氏が自身の経験に基づいた具体例を挙げながら論を展開している。構成や表現も分かりやすく、筆者の主張「一見「客観的なもの」に見えるニュースも、実は編集されており、自分なりに判断していくことが大切である」が伝わりやすい文章になっている。

さらに、本単元では、メディアの情報は発信者によって編集されたものであること、そのため、複数の情報源に当たって信頼性を高めること、そして、常に多面的な見方や考え方で情報を見極める必要があることなどを具体的に学習する。同時に、協働的な学習の中で、友達の意見を取り入れながら、自分の思いや考えを的確に表現することは、情報を見極める能力の向上には不可欠であり、その点でも、情報への接し方と情報の用い方を身につけることに適した単元となっている。

これらのことから、本単元においてメディアの情報を様々な視点から主体的・対話的に考える学習を行うことは、これからの社会に求められる資質・能力として設定した「協働解決のために自己表現する力」の獲得につながると考える。同時に、本校の学校目標である「自分の将来に夢や目標を持ち、自己実現に向けて挑戦し続ける生徒の育成」の実現にも寄与するものと捉える。

(2) 系統観

1年(2月)本時	2年(1月)	3年(1月)
[言葉とメディア] 「ニュースの見方を考えよう」 C読むこと(1)オ ・情報への接し方と情報の用い方を身につける。	[言葉とメディア] 「『正しい』言葉は信じられるか」 C読むこと(1)ウ(2)ウ ・事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いを考える。	[言葉とメディア] 「いつものように新聞が届いた」 —メディアと東日本大震災 C読むこと(1)エ(2)イ ・情報の意義とメディアの役割について考えを深める。

(3) 生徒観

○平成28年度熊本県学力調査(国語)の結果は、以下のとおりである。(定着率)

	総合	話す・聞く	書くこと	読むこと	伝国	知識	活用
本学級	73.9%	92.9%	77.9%	67.6%	64.8%	65.3%	89.8%
県平均	62.9%	78.7%	63.6%	58.0%	56.7%	58.5%	71.1%
差	+11.0	+14.2	+14.3	+9.6	+8.1	+6.8	+18.7

各領域とも大きく県平均を上回っている。ただ、「読むこと」に関しては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」よりも5%ほど定着率が低い。

○事前アンケートの主な結果は、以下の通りである。

質問項目	肯定的回答
国語の授業で学んだことは、将来、社会に出た時に役に立つと思うことがある。	93.5%
授業中、これまでの学習や経験を活かして自分の考えをもつことができている。	87.1%
先生や友達のアドバイスで、自分の考えが広がったり深まったりしている。	77.5%
国語の授業を通して、「協働解決のために自己表現する力」が高まっていると思う。	71.0%
授業で、何を学んだか、何ができるようになったかを振り返っている。	67.7%
授業中、自分たちで課題を解決する方法を工夫して取り組むことがある	58.1%

- アンケートの結果から、国語に対する有用感や学習意欲は高く、授業を通じた「自分の考えの形成」についても肯定的な回答が多いことが分かる。ただ、「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「協働解決のために自己表現する力」については、約4分の1の生徒が「友達のアドバイス（協働解決）」による自己の思考の深まりを実感していないと答えている。同時に30%弱の生徒は、授業を通じた「自己表現力」の高まりも認識できていないことが分かった。
- また、「授業に対する振り返り」や「課題解決への工夫」については、他のアンケート項目に比べ、肯定的な評価が低い結果となった。そのため、「主体的・対話的で深い学び」に実現に向けて、「振り返りの充実」や「単元を貫く問いの工夫」など単元全体を通じた学習活動の工夫が必要と考える。

(4) 指導観

- このような生徒の実態を踏まえ、「単元を貫く問い」を生徒に身近で実生活に関連が深い「県中学校駅伝大会優勝のニュースを編集し、情報を見極めるプロになろう」と設定し、学ぶ目的や必要性を意識して取り組めるようにする。具体的には、自校の陸上チームの活躍を知らせる情報（写真と文）について、「A：全員の健闘を伝える」と「B：特定の選手の健闘を伝える」のいずれかの意図に応じてニュースを編集する活動を行う。それによって、どちらも事実を伝えていながら、どの情報を選択するかによって、印象の違いが生じることを実感させる。このような情報発信の疑似体験を通して、情報の客観性を問い直し、情報の見極め方について考える「深い学び」となることを目指す。
- 「協働解決のために自己表現する力」に関しては、「対話型言語スキル」を活用した「対話的な学び」を中心として育成を図る。対話による交流を通して、言語を使って適切に自己表現することが自分のものの見方や考え方を広くするとともに、協働解決の場面でも常に必要であることを意識させる。
- 「主体的な学び」では、自らの学習活動を振り返って、次の学習につなげることが重要となる。具体的には「何をどんな方法で学び、今後はどう生かすのか」「協働し、対話する中で新たに学んだことは何なのか」等を「振り返り」の中でメタ認知することが求められている。「振り返り」の視点を明確に示し、生徒が自分の学びを自覚化できるように工夫する。
- さらに、思考ツールを活用した板書や学習シートの工夫、ICTの効果的な活用を図り、思考過程の可視化ができるような手立ても工夫する。

学びを引き出す

学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ①編集の仕方によるニュースの印象の違いを体験し、情報の見極め方を考えるという課題解決的な学習活動を通して、「主体的な学び」を目指す。
- ②対話型言語スキルを活用し、「対話的な学び」を充実させることで、資質・能力としての「協働解決のために自己表現する力」の育成を目指す。

学びを振り返る

思考過程の可視化と
学びの振り返り

- ③思考ツールを活用した板書や学習シートを工夫し、生徒の思考過程がどのように変容したのかが可視化できるようにする。
- ④振り返りの場面において、学習内容を振り返るだけでなく、資質・能力等についての自己評価も行い、メタ認知力の向上を図る。

学びを支える

学びのUD化とICT
の活用及び支持的風土

- ⑤一人一人の学びを的確に見取りながら支援を行うことで、生徒が対話しやすい雰囲気をつくる。また、「協働解決のために自己表現する力」の育成に向けて、ICTを効果的に活用する。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	メディアの情報を多面的に捉え、自分の考えを広くすることができる。	
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
イ 「文章と写真などとの関連を考えながら説明の文章を読む」言語活動を通じた指導		
①文章と写真との関連を捉えながら、説明の文章を読もうとしている。	①説明されている事実と写真との関係を整理し、文章の要旨を捉えている。(イ) ②説明されている情報についての書き手のものの見方や考えを捉え、自分の考えをもっている。(オ)	①文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(イ(イ))

4 指導・評価の計画（5時間取扱い 本時5／5）

単元を貫く問い

メディアの情報を見極めるプロとなるためには何が必要か、県中学校駅伝大会優勝のニュースを編集しながら考えよう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	1 「単元を貫く問い」を理解し、学習の見通しを立てる。 2 漢字や語句を確認し、本文の大まかな内容と文章の構成を捉える。	【関心・意欲・態度】①：学習シート 【言語の知識・理解・技能】①：学習シート 【学びを引き出す】 ①ニュース編集の意図を理解し、メディアの情報を見極める能力の必要性を理解する。
二	2・3	3 筆者の考えを読み取り、インターネットの情報と比較することで、情報への接し方を考える。	【読む能力】①：学習シート 【学びを振り返る】 ③情報を比較し、受ける印象の違いがなぜ生じたかという思考過程を明確にする。 【学びを支える】 ⑤ICTを効果的に活用し、情報を共有化する。
三	4	4 意図に応じてニュースを編集し、情報に接する際の留意点について、自分の考えをもつ。	【読む能力】②：学習シート 【学びを引き出す】 ②「対話型言語スキル」を活用し、「対話的な学び」の充実を図る。 【読む能力】②：学習シート ④視点を明確にして「振り返り」を行い、メタ認知力の向上を図る。
	5(本時)	5 編集したニュースの印象の違いを伝え合い、情報への接し方について考えたことを交流する。 6 交流を通して、情報の見極め方について自分の考えを広める。	【読む能力】②：学習シート 【学びを引き出す】 ②「対話型言語スキル」を活用し、「対話的な学び」の充実を図る。 【学びを振り返る】 ④単元全体を通じた「振り返り」を行い、何が身に付いたのか等を明確にする。

5 本時の学習

(1) 目標

編集したニュースの印象の違いを交流することを通して、情報の見極め方について自分の考えを広くすることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時の目標を確認する。 学習目標 (めあて)	○「ニュースの見方を考えよう」での既習事項を生かしながら取り組むことを伝える。	
	情報を見極めるためには何が大切か、新しい視点から考え、自分の考えを広くしよう。		
展開 40分	2 [本時の問い]に取り組む。		
	[本時の問い] 同じニュースなのに、編集の仕方によって印象が変わるのはなぜだろう。		
	(1) 編集したニュースをグループで発表し、互いの印象の違いを交流する。 (対話型言語スキルの活用)	○実際に編集してみて分かったことや考えたことのもとに、理由を明確にして交流(自己表現)させる。 徹底指導 (ポイント) 考えの根拠を明確にして、自己表現させる。	学習シート
	私は、○○に□□と書いてあり、それが△△につながるの で、〃〃と考えました。 みなさんはどうですか？ それは、つまり…といことで すか？ 例えば、何ですか？ ○〇さんの意見を聞いて、 思いついたのですが…。 みんなの意見をまとめると、 …だと分かりました。	○交流活動で出された考えは、各自でメモを残すように促す。 ○「対話的な学び」となるように、教師による適切な言葉かけや支援を行う。 【学びを引き出す】 ②対話型言語スキルを活用して、情報の見極め方に対する多様な考えを引き出す。	
	(2) 交流を通して考えたことのもとに、情報の見極め方についての新たな自分の考えをまとめる。	○情報の見極め方について、新たな視点からできるだけ具体的に表現し、交流するように伝える。	学習シート
	【言語活動】 (設定の意図) グループでの交流のもとに、情報の見極め方を検討し、新たな視点から自分なりの考えをまとめる。	評価：読む能力② (学習シート) B基準 情報の見極め方について、既習事項や本時の学習を参考に、新たな自分の考えをまとめている。	
	3 全体で考えを交流する。	A基準 B基準に加え、自分の知識や経験なども交えて、新たな自分の考えをまとめている。 (B基準に達していない生徒への手立て) ○友達の見聞きを聞きながら、一番納得した意見を参考にし、まとめるように支援する。	学習シート
	〈情報の見極め方〉 ・情報は、発信者によって編集されたものであることを意識する。 ・発信者は、専門的で公平な立場にあるかを考える。 ・複数の情報源に当たって、信頼できる情報かを確認する。 ・異なる見方や考え方ができないか、常に吟味する。	能動型学習 (ポイント) 情報への接し方や情報の使い方などについて、新たな視点から多様な考え方ができるようにする。 ○交流した内容について、教師が適切な価値付けを行う。	
整理 5分	4 本時の振り返りをする。	○振り返りの視点(授業で学んだこと等)について、学習シートに記入させ、交流させる。 【学びを振り返る】 ④ペアトークで振り返りを行うことで、メタ認知力の向上を図る。	学習シート